

○空間音圧レベル差：日本建築学会の遮音等級・生活実感との例・適用等級の一覧及び適用等級の意味

対象：集合住宅〔居室〕

○空間音圧レベル差（戸境壁の遮音性能）

良い←

→悪い

遮音等級		D-65	D-60	D-55	D-50	D-45	D-40	D-35	D-30	D-25	備考
日本建築学会適用等級 (集合住宅：居室)		(特級以上)		特級	1級	2級	3級				
空気音に関する 生活実感	ピアノ、テレビ等の大きい音	通常では聞こえない	ほとんど聞こえない	かすかに聞こえる	小さく聞こえる	かなり聞こえる	曲がはっきりわかる	よく聞こえる	大変よく聞こえる	うるさい	音源から1mで90dB前後を想定
	テレビ、ラジオ、会話等の一般の発生音	聞こえない	聞こえない	通常では聞こえない	ほとんど聞こえない	かすかに聞こえる	小さく聞こえる	かなり聞こえる	話の内容がわかる	はっきり内容がわかる	音源から1mで75dB前後を想定
	生活実感、プライバシーの確保	ピアノやテレビを楽しむ *機器類の防振は不可欠	カラオケパーティ等を行っても問題ない *機器類の防振が必要	隣戸の気配を感じない	日常生活で気がねなく生活できる 隣戸をほとんど意識しない	隣戸住宅の有無がわかるがあまり気にならない	隣戸の生活がある程度わかる	隣戸の生活がかなりわかる	隣戸の生活行為がよくわかる	隣戸の生活行為が大変よくわかる	生活行為、気配での例

※生活実感は「室内の暗騒音を30dBA程度としてまとめた」もので、「暗騒音が20~25dBAの場合には、生活実感が1ランク左に寄ると考えた方がよい」との注釈がある。

○日本建築学会の遮音等級の意味

適用等級	遮音性能の水準	性能水準の説明
特級	遮音性能上とくにすぐれている	特別に高い性能が要求された場合の性能水準
1級	遮音性能上すぐれている	建築学会が推奨する好ましい性能水準
2級	遮音性能上標準的である	一般的な性能水準
3級	遮音性能上やや劣る	やむを得ない場合に許容される性能水準

注) 表記について (JIS表記との関係) : 空間音圧レベル差 $D=D_r$ 、特定場所間音圧レベル差 $D=D_p$

出典：建築物の遮音性能基準と設計指針〔第二版〕